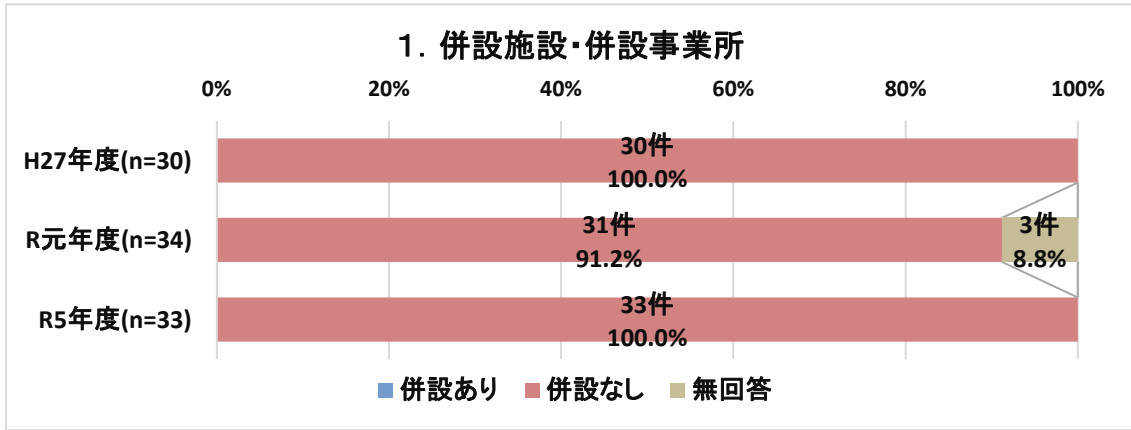


3. 歯科診療所

- ・ H27 年度：回答数 30 ケ所／対象数 35 ケ所 回答率 85.7%
- ・ R 元年度：回答数 34 ケ所／対象数 34 ケ所 回答率 100.0%
- ・ R 5 年度：回答数 33 ケ所／対象数 33 ケ所 回答率 100.0%

(1) 併設施設・併設事業所

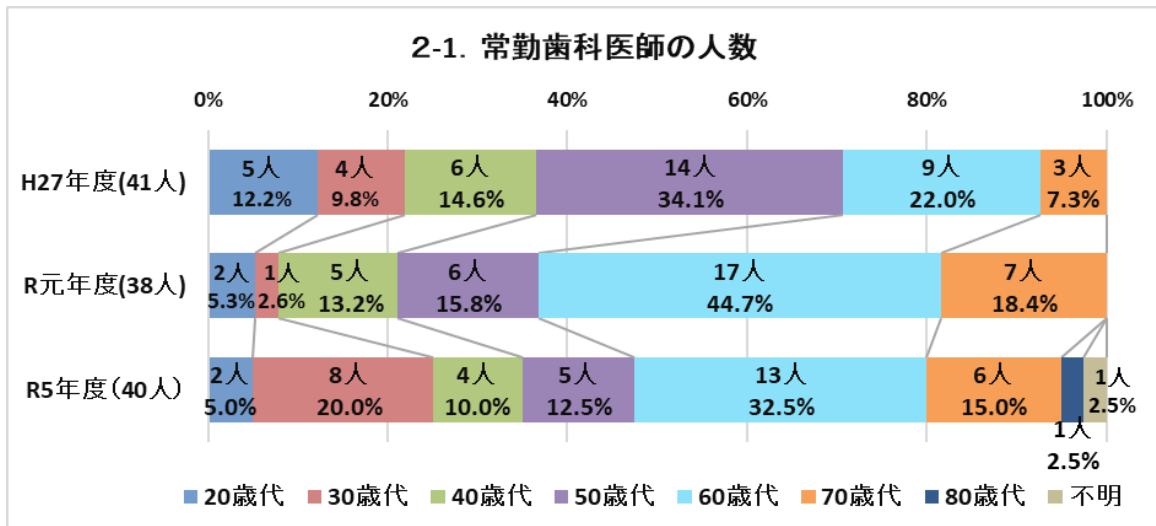
併設施設・併設事業所のある歯科診療所はない。



(2) 歯科医師・歯科衛生士の人数（事業所数は n=33）

1) 常勤歯科医師の人数

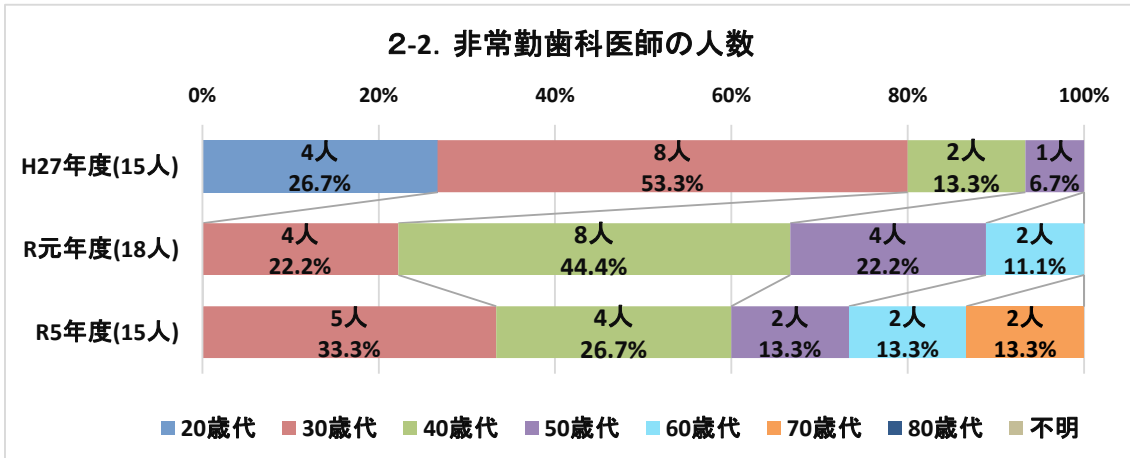
60 歳代が 13 人(32.5%)で最も多く、次いで 30 歳代が 8 人(20.0%)となっており、30 歳代の人数は増加している。



2) 非常勤歯科医師の人数

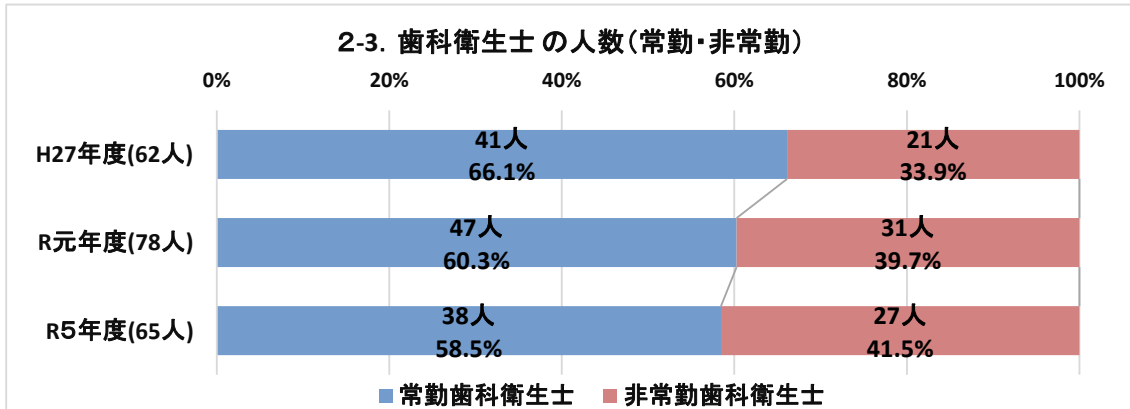
30歳代が5人(33.3%)で最も多く、次いで40歳代が4人(26.7%)となっている。

また、20歳代が減少し、70歳代が増加している。



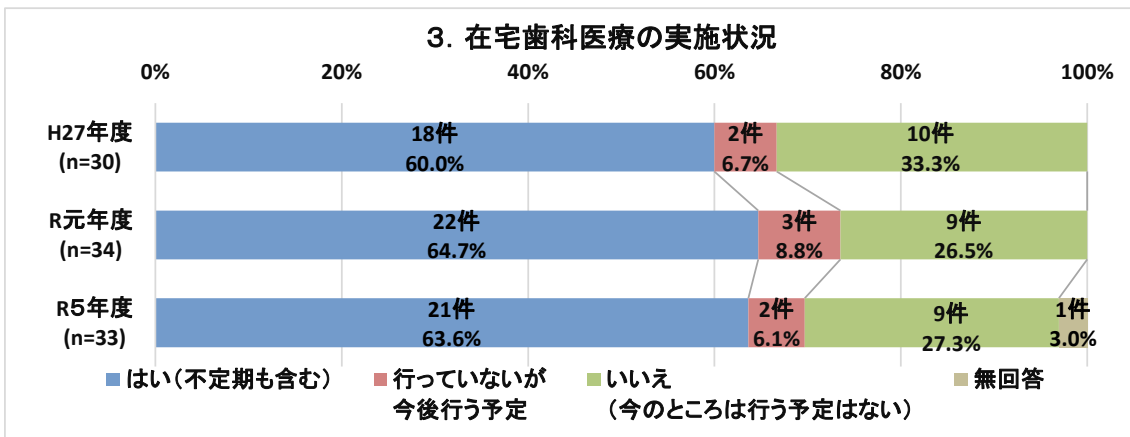
3) 歯科衛生士の人数（常勤・非常勤）

常勤歯科衛生士が占める割合は減少し、非常勤歯科衛生士の占める割合は増加している。



(3) 在宅歯科医療の実施状況

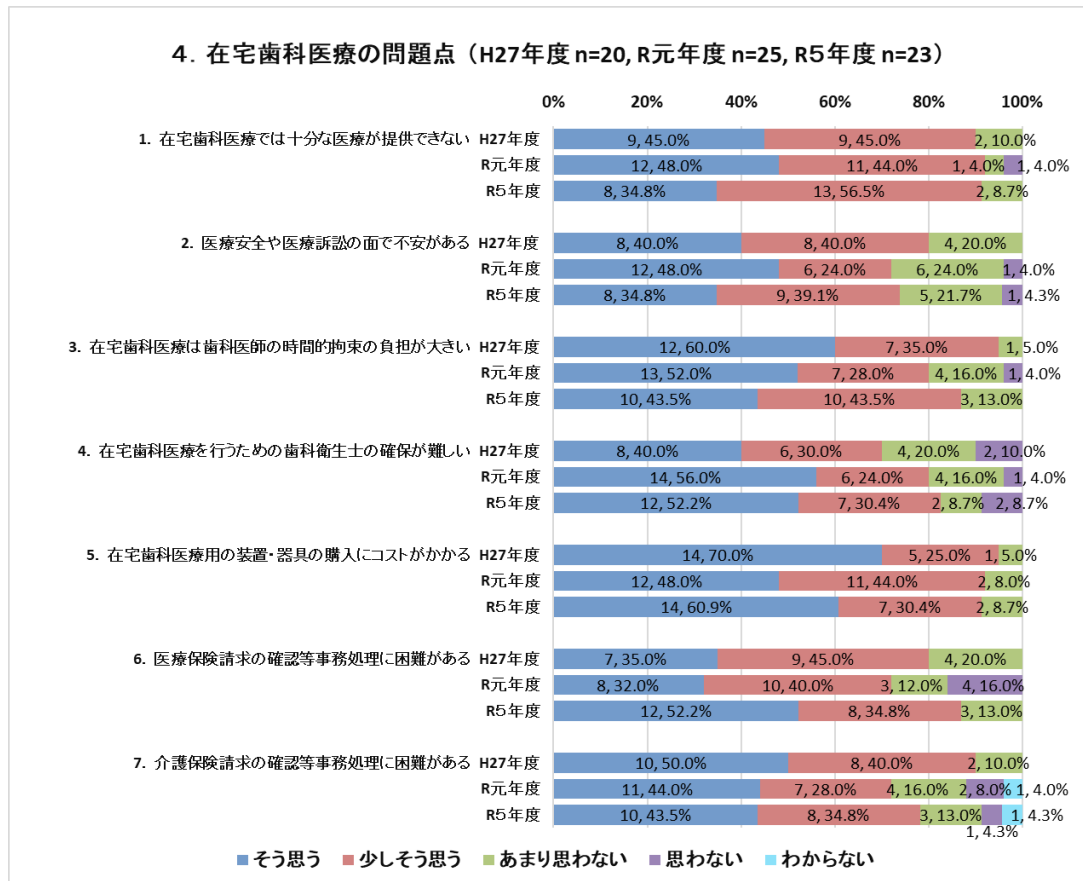
在宅歯科医療の実施状況について、大きな変化は見られない。



(4) 在宅歯科医療の問題点

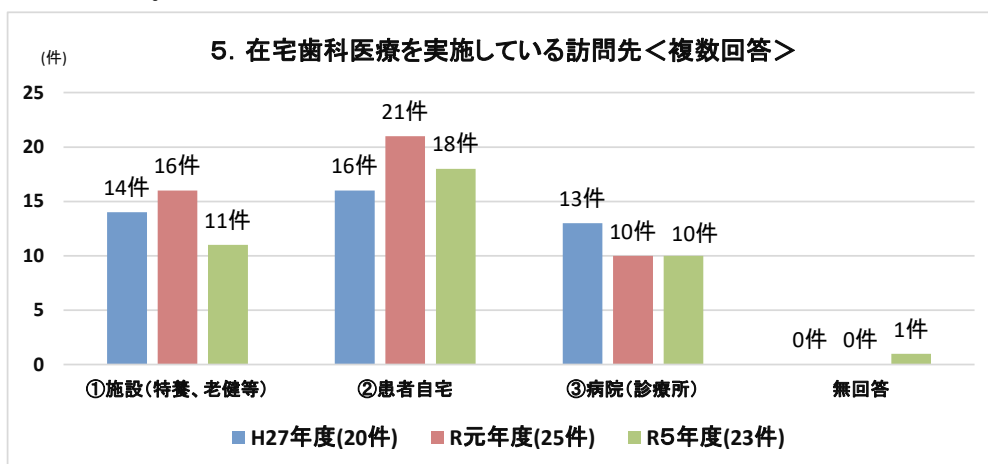
全ての項目について、「そう思う」「少しそう思う」と回答した割合は7割以上となっている。特に、「1. 在宅歯科医療では十分な医療が提供できない」「5. 在宅歯科医療用の装置・器具の購入にコストがかかる」については21件(91.3%)と最も高い。

「4. 在宅歯科医療を行うための歯科衛生士の確保が難しい」と思う(そう思う+少しそう思う)割合は増加している。



(5) 在宅歯科医療を実施している訪問先(複数回答)

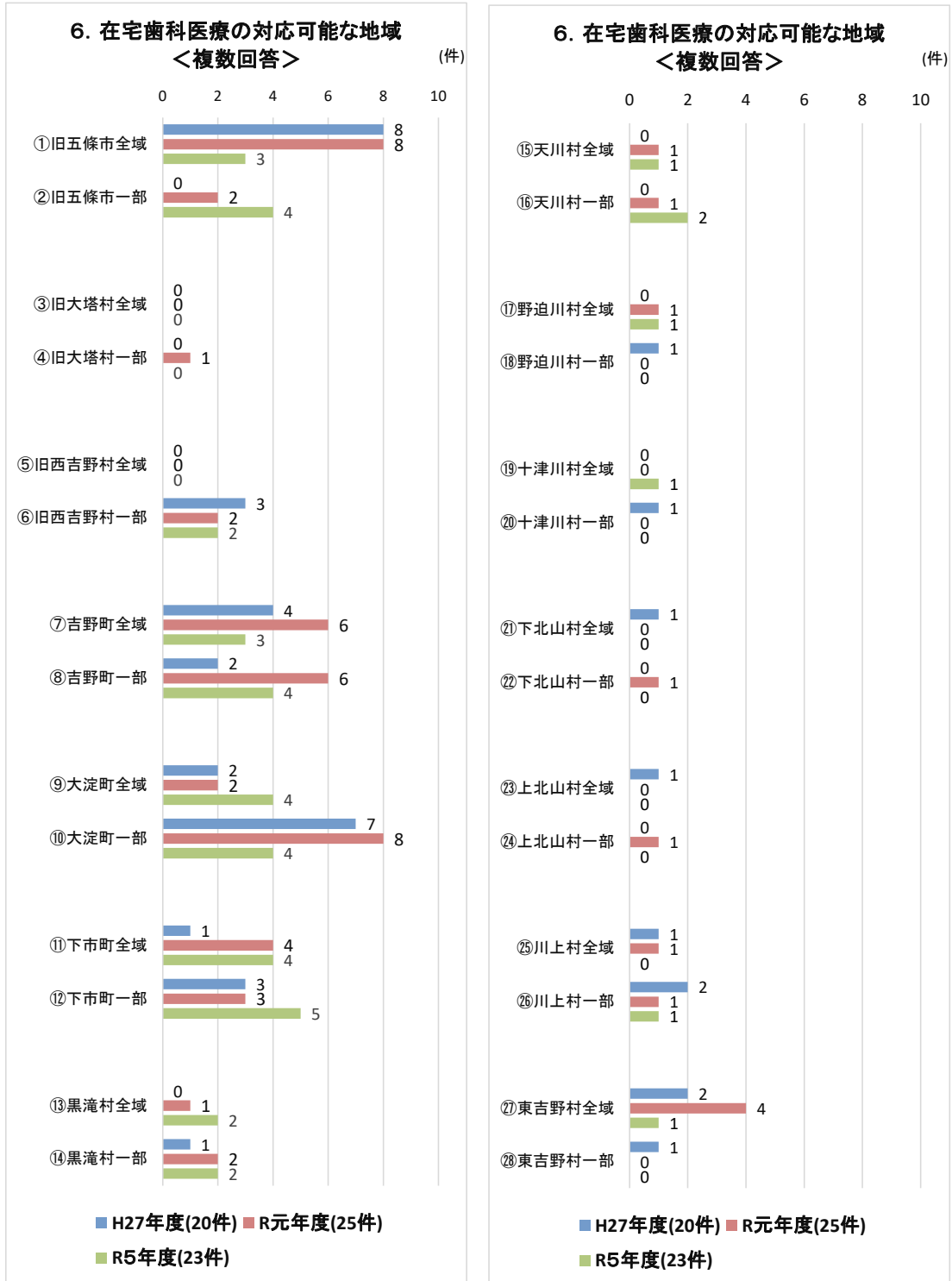
いずれの調査においても訪問先は、「患者自宅」が最も多く、「施設(特養、老健等)」、「病院(診療所)」の順になっている。



(6) 地域別在宅歯科医療の対応可能な歯科診療所数(複数回答)

村部は1市3町(五條市・吉野町・大淀町・下市町)と比較して在宅歯科医療の対応が可能な歯科診療所が少ない。

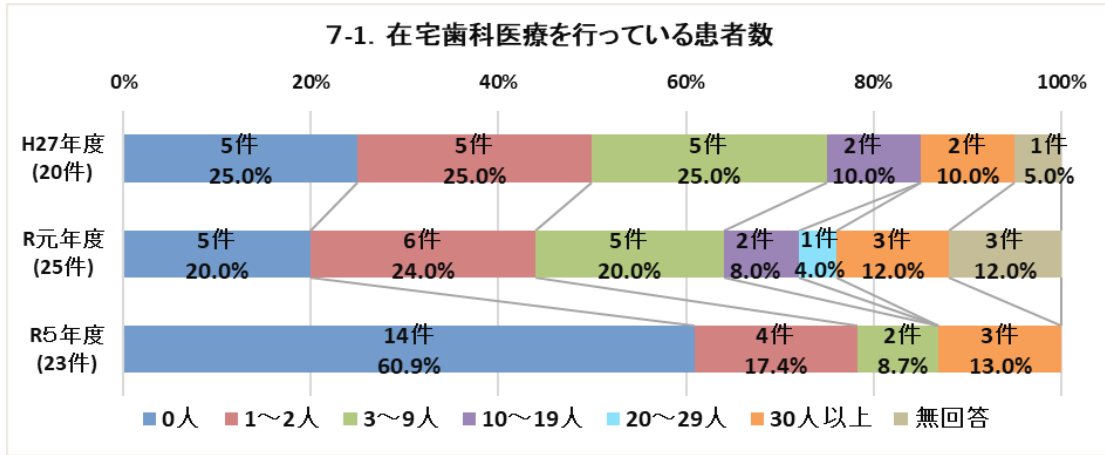
「③旧大塔村全域」「⑤旧西吉野村全域」「⑫下北山村全域」「⑬上北山村全域」への在宅歯科医療の対応が可能な歯科診療所はない。さらに、「旧大塔村」「下北山村」「上北山村」は、一部についても対応ができない。



(7) 在宅歯科医療を行っている患者数及び現体制のままで1ヶ月間に対応可能な患者数

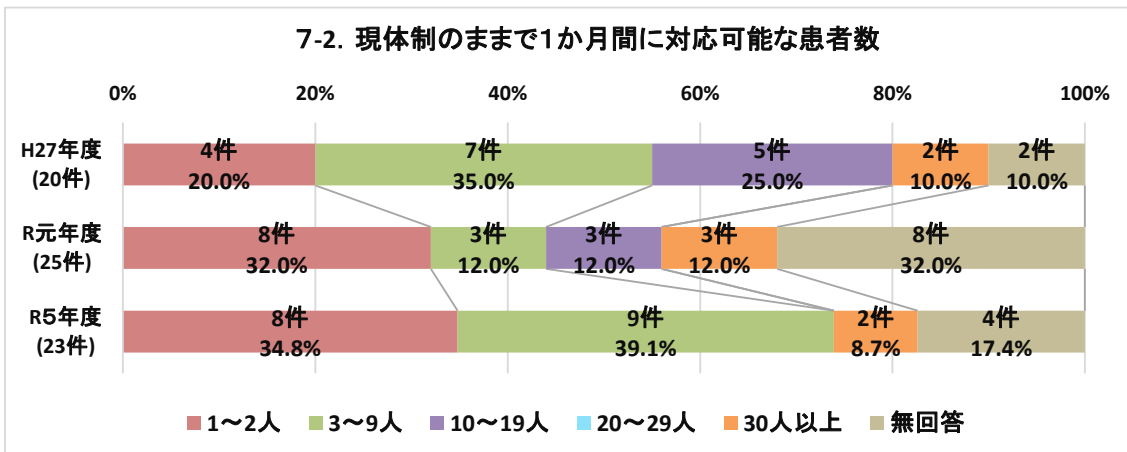
1) 在宅歯科医療を行っている患者数

在宅歯科医療を行っている患者数が「0人」と回答した歯科診療所数は大幅に増加し、14件(60.9%)となっている。在宅歯科医療を実施している歯科診療所のうち、患者数が「9人以下」が6件(26.1%)と最多であるが、「30人以上」との回答が約1割と偏在化がみられる。



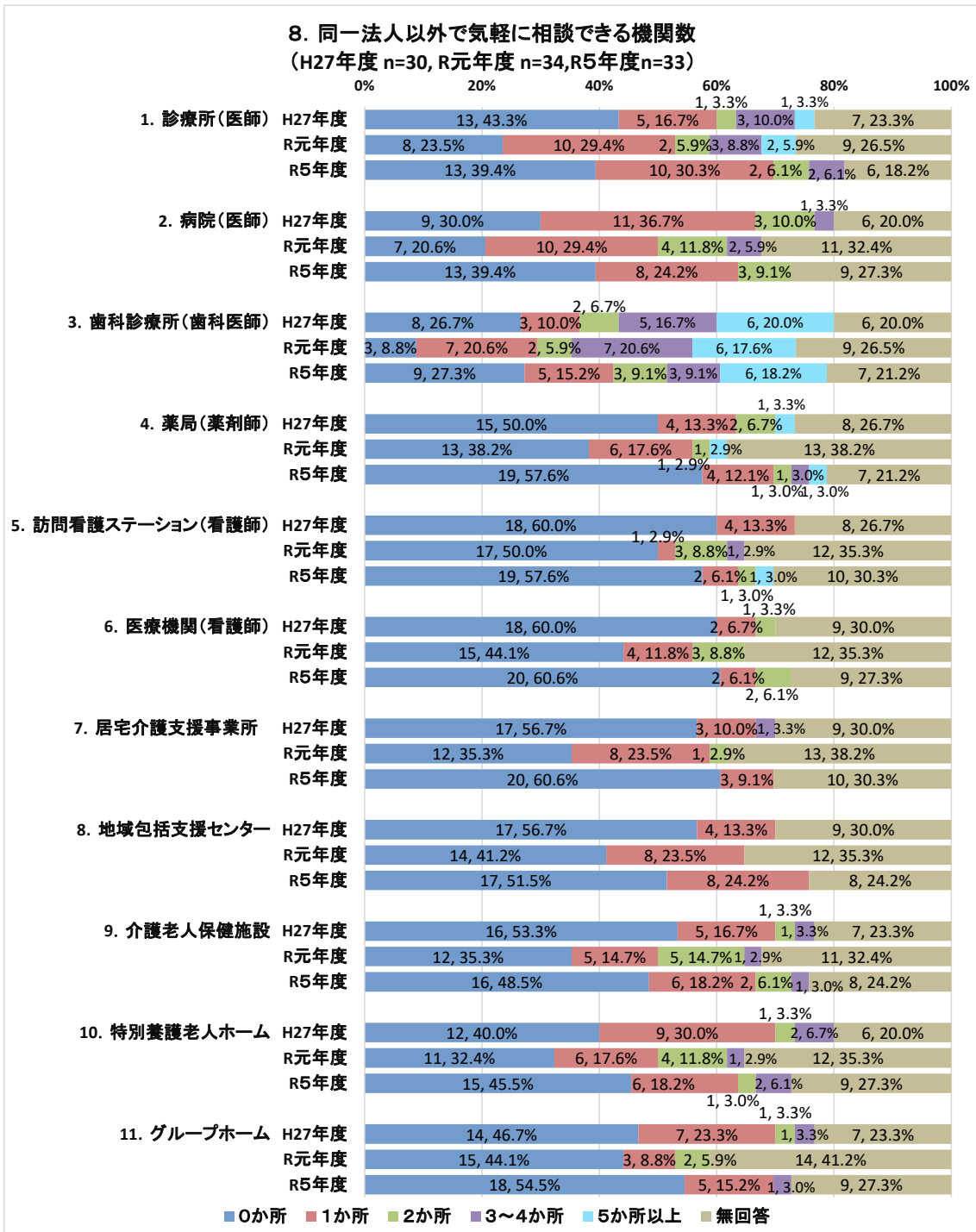
2) 現体制のままで1か月間に対応可能な患者数

「9人以下」と回答した割合が約7割を占めている。一方、「30人以上」と回答した割合は1割弱となり、偏在化がみられる。



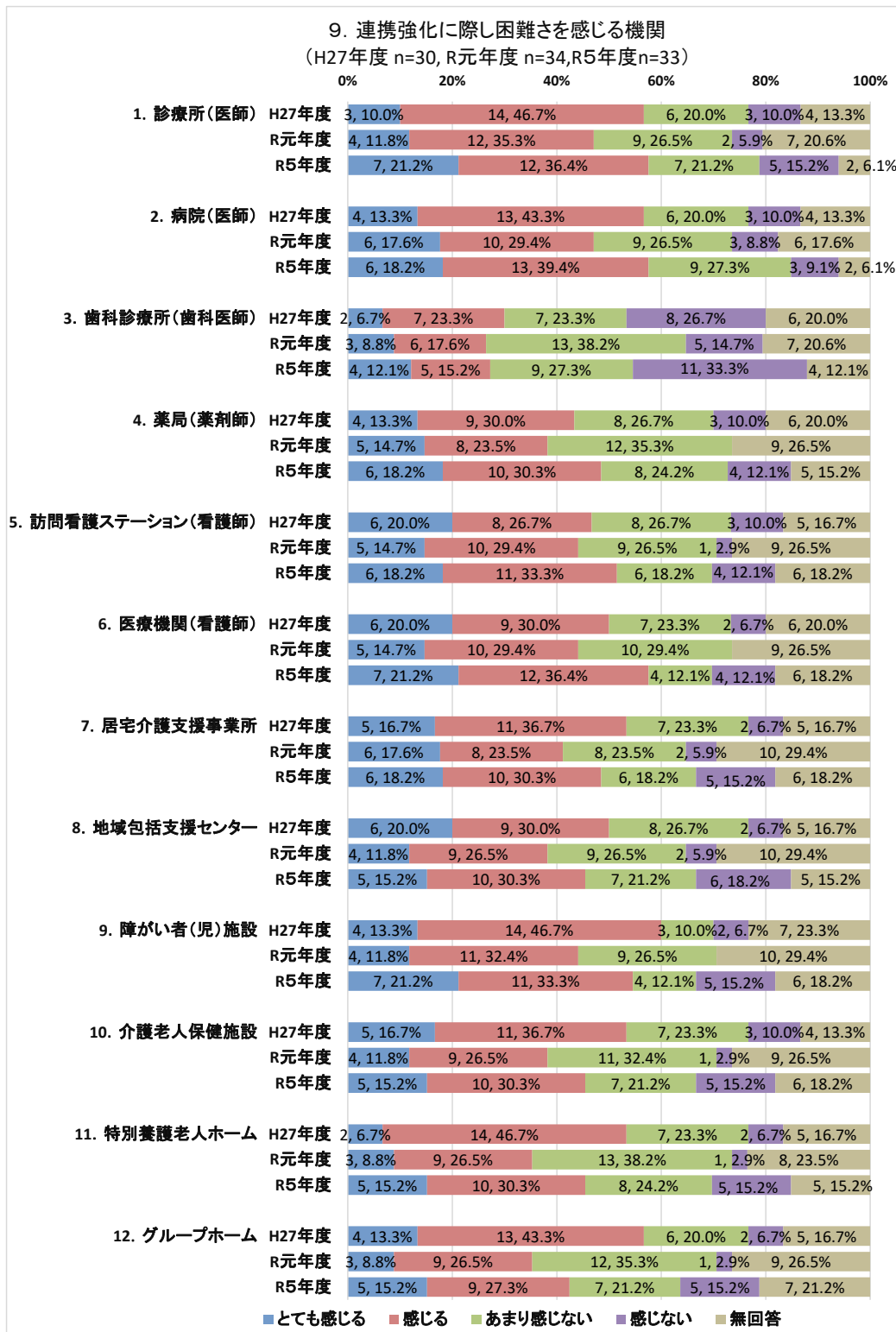
(8) 同一法人以外で気軽に相談ができる機関数

「1. 診療所(医師)」「2. 病院(医師)」「3. 歯科診療所(歯科医師)」は、1ヶ所以上気軽に相談できる機関が3割以上となっている。一方、それ以外の機関については、「0か所」と回答した割合が約5割となっており、相談がしづらい可能性がある。



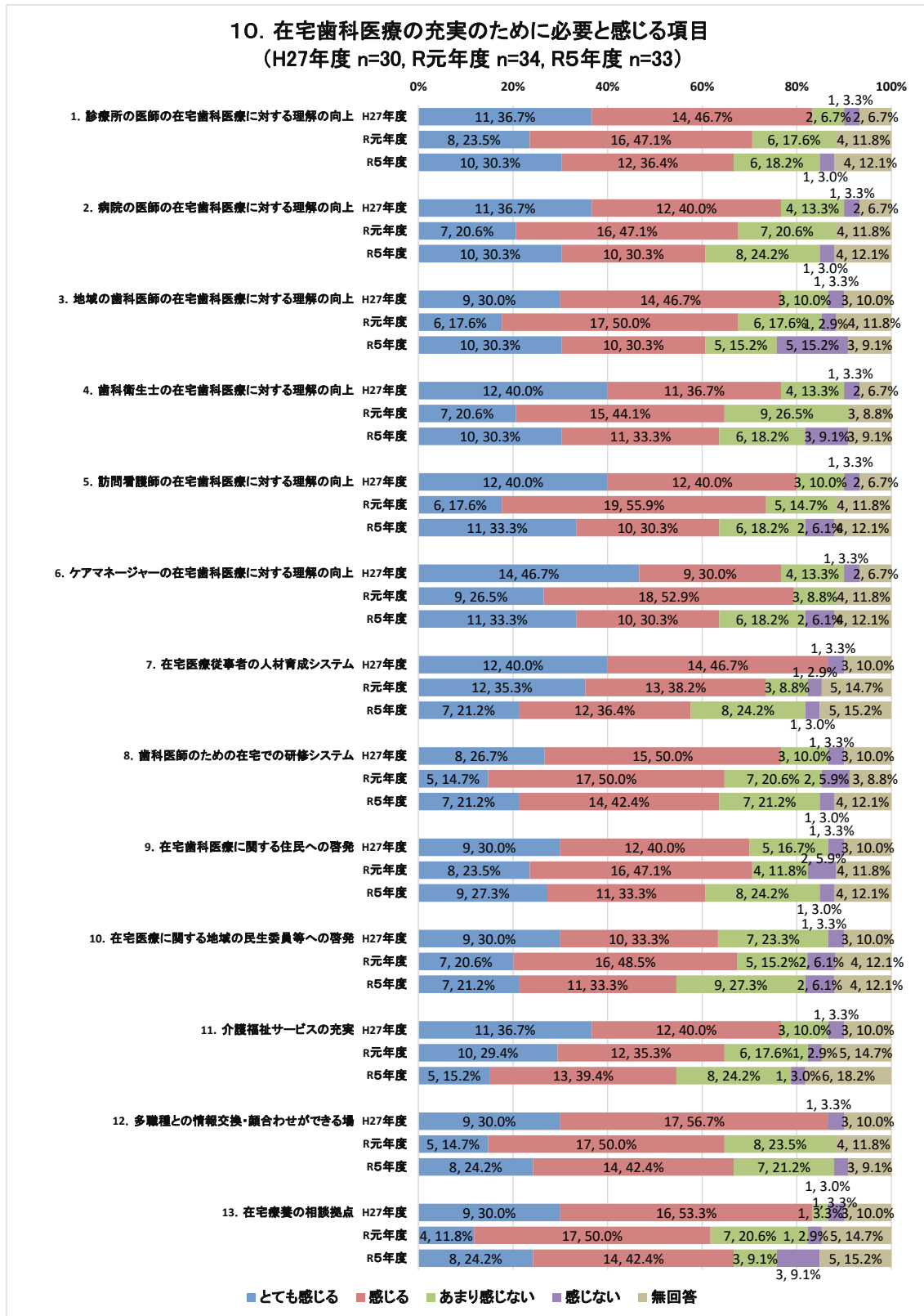
(9) 連携強化に際し困難さを感じる機関

「3. 歯科診療所 (歯科医師)」は、「あまり感じない」「感じない」と回答した割合が約6割で最も少ない。一方、「1. 診療所(医師)」「2. 病院(医師)」「5. 訪問看護ステーション (看護師)」「6. 医療機関(看護師)」「9. 障がい者(児)施設」について、連携強化の困難さを「とても感じる」「感じる」と回答した割合が5割以上となっている。



(10) 在宅歯科医療の充実のために必要と感じる項目

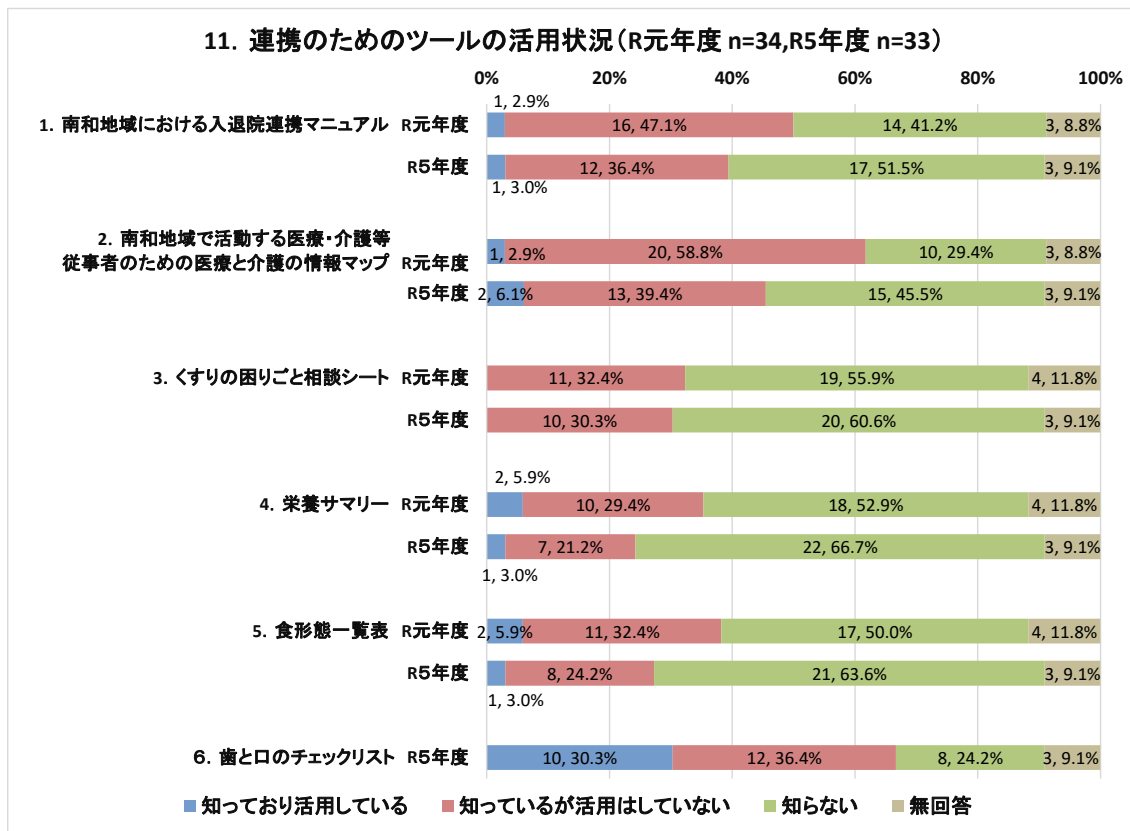
全ての項目について、「とても感じる」「感じる」と回答した割合は、半数以上となっており、その割合は減少傾向にある。



(11) 連携のためのツールの活用状況

連携のためのツールについて、「知らない」と回答した割合が増加している。

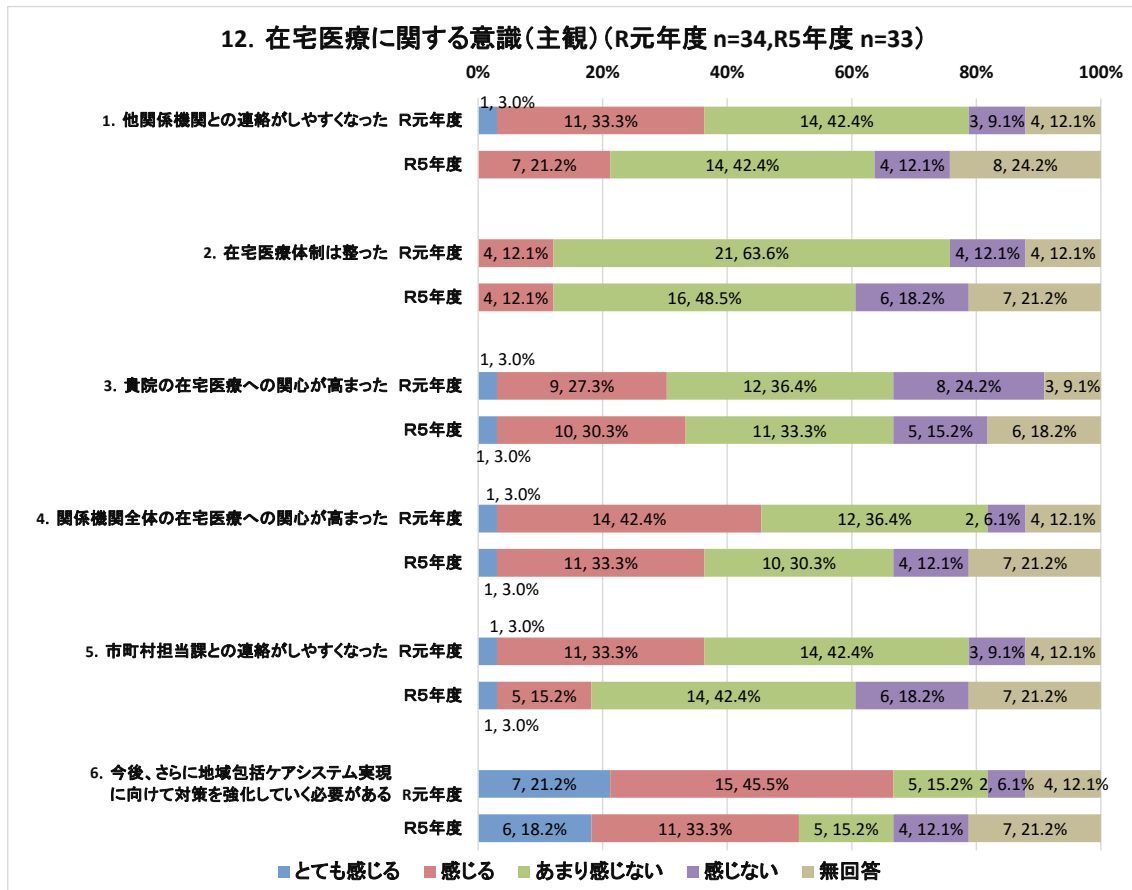
「6. 歯と口のチェックリスト」については、「知っており活用している」が10件(30.3%)で最も多い。



(12) 在宅医療に関する意識(主観)

「6. 今後さらに地域包括ケアシステム実現に向けて対策を強化していく必要がある」について、「とても感じる」「感じる」と回答した割合は、17件(51.5%)で最も高く、次いで「4. 関係機関全体の在宅医療への関心が高まった」となっている。

また、「1. 他関係機関との連絡がしやすくなった」「4. 関係機関全体の在宅医療への関心が高まった」「5. 市町村担当課との連絡がしやすくなった」「6. 今後さらに地域包括ケアシステム実現に向けて対策を強化していく必要がある」について、「とても感じる」「感じる」と回答した割合はR元年度より減少している。



(13) 在宅医療についての意見等(自由意見)

自由記述
今後在宅は必要不可欠になっていくので、もっと勉強していきたいし、必要な機材もそろえていきたいと思っています。
多くの研修の機会を準備していただいているとは感じていますが、一般歯科診療所からすると、具体的なケアの方法の研修より、顔の見える関係を構築するために特化した場が欲しく感じています。すべての研修に参加することはできないので、吉野地区歯科医師会会長を通じ、この研修は是非に、という呼びかけをしてもらえればありがたいです。いつもご苦労さまです!!
3年前まで在宅医療をやっていましたが、現在では少しムリかもしれません。健康面でムリかも。
在宅していません。
在宅医療してません。